

# 品川区教育委員会会議記録

平成 26 年 第 5 回 臨時会

場 所 教育委員室

期 日 平成 26 年 7 月 15 日

開 会 午後 1 時 33 分

閉 会 午後 3 時 05 分

|      |          |        |
|------|----------|--------|
| 出席委員 | 委 員 長    | 鈴木 敏夫  |
|      | 委員長職務代理者 | 市川 信之助 |
|      | 委 員      | 波多野 美佳 |
|      | 委 員      | 菅谷 正美  |
|      | 教 育 長    | 中島 豊   |
| 欠席委員 |          |        |

|      |          |            |
|------|----------|------------|
| 出席職員 | 教 育 次 長  | 田村 信二      |
|      | 庶務課長事務取扱 | 教育次長 田村 信二 |
|      | 学 務 課 長  | 野呂瀬 久      |
|      | 指 導 課 長  | 渋谷 正宏      |
|      | 学校支援担当課長 | 村尾 勝利      |

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 議事運営<br>および<br>委員長、教育<br>長報告事項等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>署名委員に市川委員、波多野委員を指名。</li> </ul> |
|---------------------------------|---|

|        |  |
|--------|--|
| 件名     | <p>日程第1 協議事項</p> <p>平成27年度品川区立小学校等使用教科用図書の仮採択について（社会）</p>  |
| 担当課説明等 | <p>（指導課長）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指導主事より説明する</li> </ul> <p>（指導主事）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料に基づき説明</li> </ul>  |
| 委員質疑要旨 | 特になし   |
| 事務局説明  | 特になし   |
| 委員意見要旨 | <p>（委員C）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>C社のみ、戸越銀座や武蔵小山商店街など品川区の商店街を取り上げる頁があり、子どもたちが教科書を身近に感じられるのではないかと思う。また、内容も総合的に充実しているように思える。北方領土や竹島等についての表記は、各社とも、「日本固有の領土」という表現で共通している。</li> </ul> <p>（委員D）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3、4年生の社会科において、最初に学ぶ単元に地域の記載がある。その中で、A社は姫路市を、B社は仙台市を、C社とD社は横浜市を取り上げている。どの都市を題材に取り上げるかは出版社の方針ではあるが、横浜市を取り上げているC社、D社の教科書であれば、学んだ結果を社会科見学等へ行った際に、思い出すことができるのではと思う。また、社会科のような学習については、品川区からも近く、身近な地域のほうが入り込みやすいと考える。</li> </ul> <p>（委員E）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会科は、学びの中で、課題発見や課題解決等を身に付けていくことが大事である。各社とも、「ふりかえてみよう」、「つかむ」「調べる」「まとめる」、「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」など問題解決的な学習ができるよう工夫されている。この観点から見ると、特にB社は、単元ごとに色分けがされており、欄外に何を行うかはっきり示されており分かりやすい。</li> </ul> <p>（委員B）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会科は、キーワードや視覚、ポイントを掴みやすい教科書が分かりやすいと考える。領土の問題については、難しいテーマではあるが、C社は、結果だけではなく、これまでの経過の説明もまとまっており、分かりやすい印象を受ける。また、C社は、インターネットの使用方法など、注意点も詳細に記載されており、全体的にバランスが取れていると思う。</li> </ul> <p>（委員E）</p> |

|      |  |
|------|--|
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 領土の問題については難しいテーマであるが、5年生の段階において、C社は4頁を使用し、細かく丁寧にまとめてある。領土の問題については、今後、子どもたちに身に付けさせていく上で非常に大切である。教科書のボリュームについて見ると、D社は、活字のポイント数も大きく読みやすいが、他社と比較すると情報量が少ないように感じる。</li> </ul> <p>(委員D)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ C社は、色々な地域の情報があり、郷土の面白さを感じる。また、授業に楽しく取り組めるように思える。</li> </ul> <p>(委員E)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ B社は、都道府県の記載に工夫があり面白さを感じるが、全体的なバランスや指導面を考えるとC社が良いと感じる。</li> </ul> <p>(委員A)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ C社を推す意見が多い。C社で仮決定したい。</li> </ul> <p>(委員一同)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異議なし</li> </ul> |
| 議事結果 | 社会はC社に仮決定する。   |

|        |  |
|--------|--|
| 件名     | 日程第1 協議事項<br>平成27年度品川区立小学校等使用教科用図書の仮採択について（地図）   |
| 担当課説明等 | （指導課長）<br>・ 指導主事より説明する<br><br>（指導主事）<br>・ 資料に基づき説明   |
| 委員質疑要旨 | 特になし   |
| 事務局説明  | 特になし   |
| 委員意見要旨 | （委員E）<br>・ 地図帳は、社会科と併用して使用することが多く、ひとつの資料集になると思う。この点を考慮すると、情報量が比較材料になると考える。A社は、頁を開いた際、綺麗な写真を使用しており立体感がある。一方、B社は、頁を開くと都道府県や県庁所在地の確認をすぐに行うことができ、地図の総数もA社より多いと感じる。<br><br>（委員C）<br>・ A社、B社とも非常によくできている。特に、B社は情報量が多く、様々な統計資料や領土の写真、また、説明文も盛り込まれていて分かりやすい。社会科の教科書と併用して使用すると考えれば、B社が使いやすいように思える。<br><br>（委員D）<br>・ A社、B社とも大きな差異は感じられないが、B社のほうが地図の濃淡が見やすく、使い心地が良いと感じる。A社は、表紙および裏表紙が端のみ貼り付けられており、隙間に手を入れることができ、破損しやすいと思われる。子どもは、このような隙間に手を入れたがることも考慮すると、B社のほうが表紙の作りもしっかりとしていて良いと思う。<br><br>（委員B）<br>・ 地図帳は、資料性が高いことが重要であると考え。B社は、教科書のサイズが小さいにも関わらず内容がしっかり整理されている。また、諸外国の情報量も多く、授業以外にも役立つように思える。<br><br>（委員A）<br>・ B社を推す意見が多い。B社で仮決定したい。<br><br>（委員一同）<br>・ 異議なし |
| 議事結果   | 地図はB社で仮決定する。   |

|               |  |
|---------------|--|
| <p>件名</p>     | <p>日程第1 協議事項<br/>平成27年度品川区立小学校等使用教科用図書の仮採択について（理科）</p>   |
| <p>担当課説明等</p> | <p>(指導課長)<br/>・ 指導主事より説明する</p> <p>(指導主事)<br/>・ 資料に基づき説明</p>  |
| <p>委員質疑要旨</p> | <p>(委員B)<br/>・ B社には教科書の他に別冊の資料が付いているが、別冊の資料を授業で使用することはあるのか。</p> <p>(委員A)<br/>・ 調査基準項目の「中学校の学習内容の接続や系統性、関連性への配慮」に、「粒子概念の接続」とあるが、小学校の導入時期において大切なものなのか。</p> <p>(委員C)<br/>・ 課題発見や課題解決について、A社、B社、C社、D社は、事例を踏まえながら構成されている。また、E社は、理論的な記載のみで、子どもたちの発想を大切にしながら構成されていると感じる。先生にとって、どちらの教科書が使用しやすいなどの意見はあるのか。</p>  |
| <p>事務局説明</p>  | <p>(指導主事)<br/>・ B社の別冊の資料については、各単元の終了後にまとめとして使用することが考えられる。各単元のまとめに重点を置くと考えると、別冊の資料は使い道があると思われる。しかし、教科用図書調査検討委員会の中では、別冊の資料として使用することになると、先生としては、教科書との行き来が多くなり、扱いにくいという意見があった。また、子どもたちが別冊の資料を紛失してしまうのではないかという意見もあった。</p> <p>・ 小学校の授業の「粒子概念の接続」については、学習指導要領にも示されていることであり、3年生の段階から授業で扱っていくこととなっている。特に、中学校では大事な単元となっている。</p> <p>・ 課題発見や課題解決について、教科用図書調査検討委員会では、教科書に発想や考え方が事例として記載されてしまうと、先生としては授業を進めにくいとの意見があった。また、子どもたちが自ら考えなくなることも懸念されていた。E社については、ヒントを与える程度の記載に留まり、多くの情報を与えない構成となっている。先生にとっては、子どもたちに考えさせる教科書のほうが指導しやすいとの意見があった。</p> |
| <p>委員意見要旨</p> | <p>(委員E)<br/>・ B社の別冊の資料は、使い方や目的によって、生かせるかどうか分かれてくる。また、先生の使用方法についての工夫も試されるところである。高学年で使用すれば、別冊の資料の管理力や処理能力も高まっているので活用に期待できるが、低学年ではどうかということもある。</p> <p>(委員D)<br/>・ 粒子は目に見えないものを説明することになるので、指導する先生は大変であると感じる。理科の授業は、教え方によって理科嫌いの子どもが増えることもある。特に、3年生の導入時期が非常に重要であり、正しい教え方や楽しく取り組める授業がポイントになってくる。この導入部</p>   |

分がしっかり記載されている教科書はA社であり、詳細に説明されている。さらに、この導入部分も分かりやすく、実験などを踏まえて、先への繋がりを感じられるのがE社であり、非常に考えられた構成になっていると感じる。

(委員E)

- ・ 課題発見や課題解決の記載は、あくまでも子どもたちが考える際のナビゲーションのひとつであり、該当の頁に結果が出ているか出ていないかは大事なポイントである。理科については、実験結果がすぐに分からないことが、子どもたちの考える力を養うことにつながる。また、教科書通りの結果が出ないことで、その失敗から多くのことを学ぶことができる。この点を考慮すると、D社、E社は、見開きで実験の結果が分からないようになっており、どの単元においても結果は次頁に記載する構成が徹底されている。

(委員B)

- ・ 近年、科学も急速に進歩しており、人体の構造も精密に分かるようになってきている。A社は、普段、目にすることができない人体の単元について、非常に良くできていると感じる。E社については、巻末に、胎児の様子を実物大で掲載していること、人体模型で内臓の位置を把握できることなど非常によくできていると感じる。また、理科室の使い方として、用具や挿絵、写真を多く用いて分かりやすく説明している点が評価できる。

(委員C)

- ・ E社は、総合的に整理されていてまとまっている印象がある。

(委員D)

- ・ 各社とも良くまとまっているが、E社は、楽しみながら実験ができ、目的が明確に記載されている点が良いと感じる。

(委員E)

- ・ 単元ごとの評価は、各社とも工夫がされており判断するには難しい。教科書は総合的に判断しなければならないため、この点を踏まえると、E社が指導しやすいと感じる。

(委員A)

- ・ E社を推す意見が多い。E社で仮決定したい。

(委員一同)

- ・ 異議なし

議事結果

理科はE社で仮決定する。